

# 研究レポート No.862 岩手県農業研究センター

土壌中交換性カリ含量が低い除染草地等は必ず標準施肥を！

## 【1 成果概要】

- (1) 土壌中放射性セシウム (RCs) 濃度は非常に緩やかな減少傾向にありますが、牧草中の RCs 濃度 (標準施肥区) は土壌に比べて減少の割合が大きくなっています (図1)。
- (2) 土壌中の交換性カリ含量が改良目標値 (20mg/100g) を下回る除染草地では、カリ施肥量が県標準量より少ない場合、2番草以降で牧草中の RCs 濃度が上昇し収量も低下しますので注意が必要です (図2、表1)。
- (3) 採草地用の県標準量の施肥 (早春 N:P:K=10:5:10kg/10a、追肥 N:P:K=5:2.5:5kg/10a) を行うことにより、牧草中 RCs 濃度の上昇が抑制され、カリ無施肥区及び半量区に比較して収量が増加します。

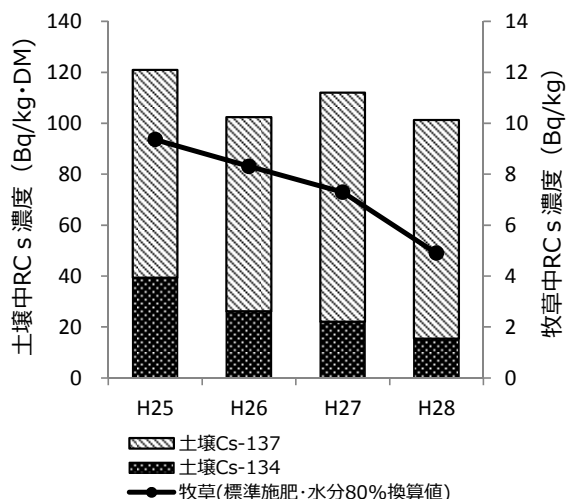


図1 土壌中及び牧草中 RCs 濃度推移

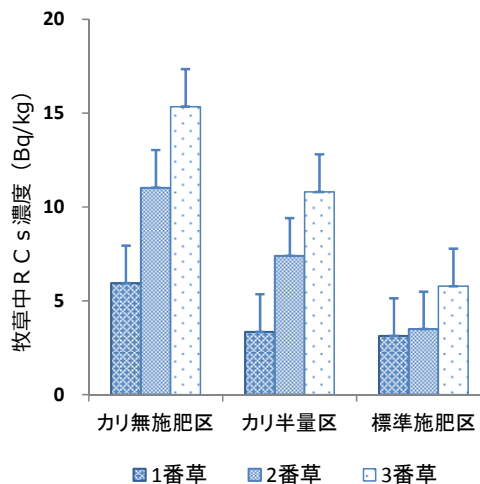


図2 牧草中 RCs 濃度

※1番草(5/20),2番草(7/7),3番草(8/26) 水分80%換算値(RCs137)

表1 試験区別カリ収支 (試算)

試験区	乾物収量 (kg/10a)	カリ持出量 (kg/10a) A				カリ施肥量 B (kg/10a)	カリ収支 B-A (kg/10a)
		1番草	2番草	3番草	計		
カリ無施肥区	524	3.5	3.4	2.4	9.3	0	-9.3
カリ半量区	584	6.7	5.4	4.3	16.3	10	-6.3
標準施肥区	636	6.9	7.5	6.6	21.0	20	-1.0

※ カリ持出量：各番草の乾物収量×各番草の乾物中カリ含量で算出

## 【2 留意事項】

- (1) 試験圃場は、滝沢市畜産研究所内除染草地で実施しました。試験圃場の土壌は、厚層腐植質黒ボク土であり、試験前 (H28.4.15) の土壌中交換性カリ含量は 11.5 mg/100g、土壌中 RCs 濃度は 92.3Bq/kg (0~15 cm深)。
- (2) 草地の土壌中交換性カリは、牧草の収量や作土中から流亡により変化するので、定期的な土壌診断により交換性カリ含量を確認することが大切です。
- (3) 土壌中の交換性カリ含量を上昇させるために、カリ肥料を大量に表面施用することは、牧草のテタニー比を上昇させ低マグネシウム血症等のリスクが高くなるので避けて下さい。収量の低下や牧草中 RCs 濃度の上昇が見られた場合は、草地更新を実施して下さい。

担当研究室 畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室  
 〒020-0605 滝沢市砂込 737-1  
 TEL. 019-688-7317 FAX. 019-688-4327